出エジプト記 結晶の学び(2) 第 14 週 律法—神と彼の民との間の婚約

鳥瞰	全聖書の主題、神のエコノミーの内容、全宇宙の秘密は、神と彼の選ばれ贖われた民との間の神聖なロマンスです：神が彼の選ばれた民に律法を与えた意図は、彼らが彼を愛する者たちになることでした。全聖書は神の求愛する言葉ですから、わたしたちは、主と彼の言葉を愛することから離れて、また彼と一になることから離れて、律法を守ろうとするべきではありません。わたしたちが主と彼の言葉を愛しさえすれば、またわたしたちが彼と共にとどまって、彼が注入されさえすれば、神・人の生活を持ち、神のかたちを帯び、神の肖像画また神の複製となります。	
	真理要点	経験適用
1日	1．全聖書は神聖なロマンスだとどのようにして言えますか？ 2．ヨハネ第 21 章と 3 章を読む時、なぜ離すべきではないのでしょうか？	1．聖書はとてもロマンチックな書であり、特に雅歌についてそうであります。この書はわたしたちとキリストとの間の愛の関係の描写です。わたしたちと主との関係はとてもロマンチックです。もしわたしたちと主イエスとの間になんのロマンスもなければ、わたしたちは宗教的なクリスチャンです。聖書は神聖なロマンスであり、わたしたちと主との関係はますますロマンチックになるべきです。 2．21 章でご自身を愛するかとペテロに尋ねていた方は、来て花嫁を持つその花婿であったのです。第 3 章における花婿としての主イエスの啓示に基づいて、第 21 章における彼とペテロとの会話は求愛の方法で行われていたことを見ます。
2日	1．旧約によれば、神はどのような深い愛情をもってイスラエルを愛されましたか？ 2．旧約が、神が彼の民をご自身に結婚させる契約であったことを説明してください。	1．エレミヤ書第 31 章 3 節で主は彼の選ばれた民に言われました、「まことに、わたしは永遠の愛をもってあなたを愛した．それゆえ、わたしはあなたを、慈愛をもって引き寄せてきた」。ここにあるのは友人たちの間の愛や、貧しい人に対する裕福な人の愛ではなく、求愛する愛、婚約と結婚に導く愛です。 2．エゼキエル書第 16 章 8 節は、神が彼の民とこの契約を結んだ時が「愛の時」であったことを示します。これは、神の民との神の契約が婚約の契約、婚約であったことを意味します。神の民とそのような契約を結ぶことによって、神は彼らをご自身に婚約させ、ご自身を彼らに婚約させました。
3日	1．旧約のどの預言者たちと新約の使徒が、神と人は夫と妻の関係であると言っていますか？ 2．どのようにして律法が婚約であり、婚約証明であると言っていますか？	1．四人の預言者、すなわち、イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ホセアは、神をイスラエルの子たちの夫として、また神の民を彼の配偶者、彼の妻として語りました。新約ではパウロがコリントに在る召会にあてて、「わたしは……あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させた」と言いました。 2．エレミヤ書第 31 章 32 節はこれを示しています、「その契約は、わたしが彼らの父祖を、その手を取ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと立てたようなものではない．わたしは彼らの夫であったのだが、彼らはわたしの契約を破ったとエホバは告げられる」。ここの契約は、神が民をエジプトの地から導き出した後、神の山で結ばれました。神が律法を与えたとき、ご自身の民に求愛しておられたことを示します。
4日	1．最上の愛が盲目の愛であるのは何故ですか？ 2．出エジプト記第 20 章 3 節で述べられた婚約の条件とは何ですか？	1．神の民に対する神の愛には何の理由もないかのようです。彼はただ彼らを愛されたのです。ほとんど彼は愛によって盲目であったかのようです。彼らが彼に対して忠信でないときでさえ、彼は彼の民を愛し続けられました。愛は人を盲目にします。最上の愛は、このような盲目の愛です。もしあなたが盲目でないなら、正しく愛することはできないでしょう。神は彼の民を愛するとき、彼の目を閉じて彼らを盲目的に愛されたかのようです。愛の事柄で、神より賢くあってはなりません。 2．主は言います、「あなたはわたしの前で、他の神々を持ってはならない」。ここで主は民に、ご自身に加えて他の何も愛するものを持ってはならないと告げておられます。彼は彼らの唯一の愛する方でなければなりません。これは神と彼の民との間の婚約の第一条件でした。女と婚約するどの男も、彼女が自分以外のどの男も愛さないことを要求するはずです。彼は彼女の唯一の愛する者であることを主張するはずです。
5日	1．安息日がどのようにして神の民が彼へと分離し聖別することのしるしとなりましたか？ 2．最初の五つの戒めで、すべてに「エホバ・あなたの神」という表現が使われていた意義とは何ですか？	1．安息日では、何の仕事もしてはいけません。安息日は、神の民を彼へと分離することのしるしであるはずでした。婚約の条件として、神は彼の民が、神に属し、絶対に神のためであるというしるしを帯びることを要求されました。安息日は、神の民がただ彼にだけ属すると宣言する象徴でした。 2．最初の五つの戒めは、親密な方法で、神と彼の民の婚約の条件として与えられました。それぞれの戒めは、神が愛情をもって彼の民に求愛したとき、「エホバ・あなたの神」という表現が、何度も親密な方法で用いられました。彼は長い間独りであり、今や彼らの愛を尋ね求めておられました。
6日	1．常に神によって注入されることをどのように学びますか？ 2．神の律法と神の言葉を用いる正しい方法とは何ですか？	1．わたしたちは主に対して正しいなら、絶えず彼の注入の下にあるでしょう。わたしたちは注入されればされるほど、ますます光を放ちます。主がわたしたちの内側に生き、行動し、働き、活動しておられるので、わたしたちに彼が注入され、わたしたちの中へと注入された神聖な要素をもって光を放つことは容易です。 2．わたしたちは生ける方法で主と接触しないで聖書を読むことを願いません。わたしたちは祈ることと主と接触することなしに聖書を読むことについて、警戒しなければなりません。わたしたちは御言の中の主と接触するなら、経験の中で実行的な道で彼と一であるでしょう。その時わたしたちは彼の配偶者になるでしょう。
まとめ	全聖書は神聖なロマンスです。神がどのように彼の選びの民を愛しているかが記されており、最終的に婚姻を結びます。神は求愛する神であり、全聖書は神の求愛する言葉です。神がわたしたちを求愛してくださったので、わたしたちは召会生活の中にいることが出来ます。わたしたちの応答は主と主の言葉を愛することです。わたしたちの主に対する愛の応答は雅歌が表す愛、深くて優しい愛であり、これは時間をかけて主によって注入される必要があります。わたしたちはまた神の言葉を愛します。この生ける言葉は神の本質をわたしたちの中へと注入し、わたしたちを神の光によって彼の肖像画（描写）、証しとなります。	

出エジプト記 結晶の学び(2) 第 14 週 律法―神と彼の民との間の婚約